

第4回立山町公共交通活性化協議会会議録（要約版）

日 時 令和7年7月3日（金） 13時10分～15時50分

会 場 グリーンビュー立山 2階会議室

出席者 別紙「立山町公共交通活性化協議会委員名簿」のとおり
会議録

1 開 会

2 挨 拶

3 出席者紹介

4 前回までの振り返り・議論の進め方等について

5 報告事項

第17号 令和6年度予算に係る流用について

第18号 令和7年度予算に係る流用について

第19号 立山町地域公共交通計画の策定に関する最近の動向について（その2）

第20号 国庫補助金及び県費補助金の活用について

第21号 立山町地域公共交通計画策定業務の概要について

ア 鉄道事業者への実質的な運賃補助につながることから、回数券を地域に配布し気軽に乗車できる機会を作ってはどうか。また、駅と公共施設、店舗、各種窓口との複合化により、昔のような賑わいや交通拠点として再生させられるとよい。（利用者）

イ 議論のスケジュールの中にある、第6回の承認と第7回の承認との違いは何か。また、本会議とWGはあくまでも別組織であり、それぞれで意見交換し合意することとなるという認識でよいか。（利用者）

→ 第6回は委員間の議論を踏まえた承認、第7回は、その後のパブリックコメントを踏まえた承認となる。また、組織的には、本会議の下に交通WGと庁内WGがあり、本会議資料にそれぞれの意見を反映することで、計画に盛り込んでいく予定。

6 協議事項

第12号 立山町の公共交通の課題、施策、取組の方向性等について

第13号 立山町の公共交通全体における関係者の役割について

第14号 令和6年度事業実績及び決算について

第15号 立山町の公共交通全体における関係者の責任について

第16号 立山町の公共交通における望ましいサービスレベル、目標、評価・検証等について

第17号 立山町地域公共交通計画（素案）について

※テーマ①立山町の公共交通における課題、施策、取組の方向性：①と記載

テーマ②町の公共交通全体における関係者の役割・責任分担：②と記載

テーマ③望ましいサービスレベル、目標・評価方法等：③と記載

ア ①課題は、交通事業者の労働環境が他産業と比べて大きく差があり、これを一因として職業運転士が選ばれなくなったことである。②交通は公益性の高い事業のため、やめられない背景があるが、人手不足に拍車がかかる中で、役割として求められる部分とそうでない部分を取捨選択していく必要がある。また、職業運転士としては、求めに応じた役割を果たしていききたいという気持ちがある。③果たすべき役割の範囲が限られているため、目標設定については我々の立場ではなかなか申し上げられない。(労働者団体)

イ ②福祉ワゴンは、くつろぎサロンの参加とともに、買い物等の生活支援を目的としており、運行希望が多い。福祉バスは、町営バスの代替としてくつろぎサロンの参加者が利用しており、サロン向けに町営バスのダイヤを充実されると利便性が高まるのではないかと。(福祉団体)

ウ ②本校の生徒は、40%が地鉄電車で通学しており、そのほかには自転車通学や自家用車で送迎がある。公共交通の利用は、学びの多い公共の場を経験する良い機会であることから、是非公共交通の利用を勧めたい。(教育関係者)

エ ①課題への対応を細部まで考える場合には、交通手段や利用目的などの視点を絞った話し合いが必要である。②交通事業者の役割には車両の整備や運転手の人員確保があるが、沿線の樹木の枝や雑草の維持管理はどうしていくべきかと感じている。また、送迎で通う小中学生を、公共交通の利用につなげるための働き掛けを考える必要がある。③経営面を前提に、フルでサービスレベルを向上させることは難しいため、ニーズに応じた運行本数の増減が必要と感じている。(町(教育))

オ ①施策は、現場も含めた様々な方の想いを汲み取り、実務的にも着実に進められるような方向や表現に変更・絞込みを行っていく必要がある。②受益者という考えは珍しく、納得する部分である。公共交通がないと困る現実や自らの行動を考慮し、どうあるべきかを考えていただくための働き掛けも必要である。我慢してほしいとはいづらいが、濃淡をつける時期にきていると思う。③絶対評価だけでなく、県内や全国レベルで比較できる目標・指標の設定も視野に入れていただきたい。(町)

カ ①施策の体系として非常にまとまっており、網羅されている印象である。施策に落とし込んでいく際に「立山町らしさ」の出し方が求めら

れている。五百石駅周辺が有するポテンシャル・強みも含め検討いただくとうい。②不足する葉の交通であるタクシーやデマンド交通も検討し、幹・枝・葉が繋がり、利用しやすい公共交通になるとよい。③立山町として、目指したい方向性を強く押せるメリハリをつけた目標があるとよい。(県)

キ ①③方向性2(5)交通事業者の経営環境の改善の面では、DX化等を含め活用できる補助制度を提案したい。(4)運転士確保に向けた支援では日本版ライドシェア等を国で進めるほか、職業として選ばれるような働き掛けを行っている。また、今年度富山県内で開催するお仕事体験会等のイベントを通じ、イメージアップの面で協力したい。(国)

ク ①利田地区では、利用できる公共交通が近くにない。地鉄電車沿線は風景などの面で良い環境だと感じる一方、駅はとても寂しいと感じることから、立山が見える場所で停車時間を設け、立山と写真撮影をしたり、駅で農産物を販売したりできるとよい。新しいベンチが設置された役場前のバス待合場所をもう少し広げられないか。(交通安全団体)

ケ ③地鉄電車と他の公共交通機関との接続面を工夫しないと、サービスレベル①でも、何も変わらない気がしている。②「わたしたち」が育てる公共交通という方向性がとてもよい。これに関し、利用者が関心を高められるよう、児童館で小中学生を対象に地鉄電車に関するイベントを開催予定である。(利用者)

コ ①実態に合わせた町営バスネットワークの再編については、単に五百石から工業・商業振興拠点等への運行本数を増やすのではなく、越中三郷駅まで結ぶと流動が増えるように思う。広域行政のように行政区をまとめたバスの運行を検討できないか。一般住民の利用につながるよう自治体が乗車券を購入・配布すれば鉄道事業者への補助にもつながる。方向性2(5)鉄道ファン体験ツアー等の受入れ環境整備への支援については、立山線に昔あった芦峯寺駅や粟巣野駅などの見所を含めると関心を持ってもらえると思う。方向性4の交通事業に対する運営での参画については、住民でも柔軟に運転できるシステムとすれば運転手確保に向けた支援につながる。(利用者)

サ ②地鉄電車に対して税金を投入する場合には住民との合意が必要であり、限界線を設定しておく必要がある。(利用者)

シ ①富山市へ自家用車で移動する場合、渋滞が発生する懸念があるため、これを踏まえた公共交通へのシフトを検討する必要がある。この前提としては、地鉄各駅の駐車場の確保状況も考慮する必要がある。五百石地区にはスーパーがないため、自家用車を持たない方に配慮した枝、

葉の交通を考える必要がある。東谷地区では農業関係の補助金を活用し、企業と連携したリース車両での実証運行を行うとのことであり、朝日町での好事例も聞いている。こうした取組のいいところりも必要ではないか。(利用者)

ス ①町民の多くは富山市へ通勤しており、町内の駅近くに無料駐車場があれば電車を利用したい方は多い。運行本数が多い本線で駐車場にできる土地があるのは越中三郷駅であり、検討の余地はないか。②当協会で行うE－B I K Eの貸出しは、点在する観光地へのアクセス性を高めるために実施している。今後この手段も含め、町内全域のアクセスを確保したいと考えている。公共交通が利用者ニーズに合っていないため、普通免許で運行できる小型ワゴン等の仕組みの導入を考えた方がよい。③利用者ニーズに対応し、町民に税金負担がかからないようなシステムを構築してほしい。(観光団体)

セ ③先日 of 埼玉での陥没事故など、これまで安全が当たり前であった施設の老朽化が進んでおり、現在、国を挙げてこれらの延命に努力している。サービスレベルの維持は大変だが、必要不可欠である一方で、今後は水準を落とすことも考えていく必要がある。(道路管理者)

ソ ①方向性1のバスネットワークや公共交通全体の共通バス導入の施策は非常に良いが、鉄道からバスへの乗り継ぎの利便性についても考えていく必要がある。②鉄道を利用する人の移動をタクシーとバスで補完する対策があってもよい。③サービスレベルは運行本数だけではなく、使いやすさも考えてほしい。観光資源を生かしたバス運行や公共交通以外の面での収支改善なども検討できるのではないか。(バス事業者)

タ ①②五百石から岩嶺寺までは、民家があり往来もあるため地域交通として必要な区間であり、これまで同様主体的に事業を行う必要があると考えている。一方、岩嶺寺から立山までは観光アクセスという役割が大きく、鉄道線を廃止する方向性で今後取り組んでいく。この区間の線路やその周辺は、管理するには非常に厳しい自然環境である。そして、採算の合わない鉄道輸送サービスを含めた全てを民間企業である地鉄に任せるとすれば、その全てに対応できないこともご理解いただきたい。民間事業者である地鉄が役割・責任を果たせる事業やサービスレベルの上に成り立つ「公共性の高い事業」は、立山町を中心とする公共で果たす役割・責任と捉えてほしい。(鉄道事業者)

チ 公共交通という課題に対し、民間事業者の既存の移動手段があるとなれば共同運営を考えていくべきではないか。また、車に乗れない高齢

者の足の確保や駅間、商業や事業所へのアクセス確保に向け、町営バスをどのように整備していくかが公共交通活性化のポイントである。(監査委員)

7 閉 会